

## いいがいネット連携委員会について

金沢市在宅医療・介護連携支援センター

センター長補佐 川村 直樹

令和4年7月4日(月)午後7時より、金沢市役所にて開催された金沢市在宅医療・介護連携推進協議会にて、「いいがいネット連携委員会」についての報告を行いました。

「いいがいネット」は、「良い医療と介護」と、金沢弁の「いいがいね」を掛け合わせたもので、金沢市在宅医療・介護連携支援センターの愛称です。平成29年10月から大手町の現、金沢健康福祉財団(旧、金沢総合健康センター)にて、介護保険法の「在宅医療・介護連携推進事業」を実施するための組織として、金沢市から委託を受け、事業を開始致しました。

センター長は、金沢市医師会より推薦を頂き、現在、大野金沢市医師会副会長が務められています。また、アドバイザーとして鍛冶金沢市医師会会長、高桑金沢市医師会理事にお越し頂き、在宅医療と介護の連携を図る取り組みを実施しています。

また、金沢近郊には、「いいがいネット」のほか、医療・介護関係者の勉強会や交流会などを実施する以下の4つの「在宅医療連携グループ」があります。駅西地区を担当する、「りくつなケアネット金澤」(代表:かがやきクリニック清水先生)、犀川以南地区、野々市市を担当する、「いしかわ921在宅ネットワーク」(代表:やまと@ホームクリニック大和先生)、浅野川以北地区を担当する、「金沢元町在宅医療を考える会」(代表:土原医院土原先生)、中央地区を担当する、「かなざわ在宅ICTネット」(代表:大野内科医院大野先生、金沢市医師会副会長)。

この中で、「かなざわ在宅ICTネット」は、事務局を金沢市医師会が担当しており、他の在宅医療連携3グループや地域包括支援センター連絡会、各職能団体も委員に入るなど、他の3グループと

は位置づけが異なり、市内全域の連携を推進する役割を担っていました。この市内全域の連携推進を図る機能のことを「0番機能」と呼んでいます。

「かなざわ在宅ICTネット」には、「いいがいネット」も従来より参加し、昨年度は、金沢市医師会の「病診連携」の取り組みを参考に「薬薬連携(病院薬剤師と薬局薬剤師の連携)」、「病院とケアマネの連携」のルールづくりを実施致しました。ただし、「在宅医療連携グループの中だけでは、市内全域への連携ルールの普及に限界がある」との課題が残りました。また、「かなざわ在宅ICTネット」が持つ、「0番機能」と金沢市の「在宅医療・介護連携推進協議会」との橋渡しが必要であるとの意見が高まり、今年度、「0番機能」を引き継ぐかたちで、「いいがいネット」内に新たに「いいがいネット連携委員会」を設置し、先日、金沢市への報告を行いました。

「いいがいネット連携委員会」はさまざまな職能団体の実務担当者で構成し、在宅医療・介護連携に関して、「現場の意見を集約し実践」していくことを目的としています。また、行政との連携が必要な重要案件が発生した場合には、金沢市在宅医療・介護連携推進協議会へ提言を行います。

コロナ禍において、人と人との関わりも変化してきています。このような中でも、「高齢の方や支援が必要な人が、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現」を目指して、引き続き、取り組んで参ります。ご協力を頂けますと幸いです。

